高校生の国際協力

第2回

東京都立五日市高校ESS国際交流部

「MOTTAINAI」を歌やダンスで発信

環境保全につなげる地域密着型の活動

本連載では、国際協力に取り組む全国の高校生の活動を紹介する。
国際協力の未来を担うかもしれない高校生たちと、
それを支える先生や学校を取材した。

中村先生（前列右端）と部員たち

東京都立五日市高校 ESS国際交流部の取り組み

- 五日市を訪問する外国人観光客向けの観光案内や異文化交流を行う
- 地域に深く関わりながらワークショップなどを実施
- SDGsの課題解決につながる音楽の配信、動画発信

五日市から世界に音楽配信

五日市高校 ESS 国際交流部は地域と深く関わりながら高校生ができる身近な国際協力や社会貢献活動に取り組んでいる。2022 年 9 月からは一人でも多くの人に環境問題を自分ごととして捉えてほしいという思いで「もったいない」という日本独自の価値観を世界に向けて発信するプロジェクトを実施。楽曲を制作し、音楽配信サイト Spotify 等で約 2,400 再生という成果を出し、動画サイトや地域のイベントなどで楽曲を披露している。この活動は新聞にも掲載され、FSC® ジャパンのウェブサイトにも動画が紹介されている。

部活設立の思いと生徒の学び

6 年前に ESS 国際交流部を設立した現顧問の中村俊佑先生は、全国国際教育研究協議会の全国事務局長としても活発に活動している。その原動力は、自身が学生時代に訪れたケニアでの経験だ。開発途上国の現実を教育現場で生徒に伝えることでよりよい世界の実現につなげたいと思いがある。「五日市から世界に目を向け体験的に学んでほしい。地域で活躍する素敵な大人との出会いは生徒が変化するきっかけになるのではないか」と言う。部長の中島凜さんは「この部活で身につけた対話力は今後生かせると思います」と語った。

出会いを通して切磋琢磨していく

今回の音楽制作では、部員たちが作詞し作曲は地元のシンガーソングライターに依頼。動画の制作では活動地域の森の間伐材から作られた FSC® 認証和太鼓を演奏に使い、プロの演奏家を迎えてドローン撮影も行った。また、地元の保育園の園児たちがダンス版動画の撮影に参加した。「自分たちのために時間を割いてくださった地域の方々に深く感謝を感じるとともに、それをちゃんと伝える大切さを学んだ」と中島さんは振り返る。同部の一連の活動は、2023 年 11 月に「令和 5 年度あきる野市青少年善行表彰」を受賞。五日市の豊かな自然環境を保全するために地域の方々と協働して行った清掃活動も含めて評価された。

中村先生は「先日行われた部活の引退式で、この部活がなければ今の自分はないという感謝の気持ちを伝えてくれた生徒がいた。お互い真剣な想いがあるからこそ生徒とぶつかることもあったが、生徒は自分なりに考え成長につなげてくれた」と語る。五日市から世界を見据え、地域の方との協働でさまざまな方向に広がりを見せる同部の今後の活動が楽しみだ。

五日市高校ESS国際交流部のYouTubeチャンネル